

## 1. 研究目的

現状の日本では少子高齢化は進み、ますます高齢者への考慮が必要となっている。自分の叔父も去年倒れて以来老人ホームで現在も暮らしている。そのため今回は高齢者でも若いときと同じように歩けるような歩行補助具について取り組んだ。

## 2. 調査と分析

高齢者の歩行器具を取り扱っている実状を知るため叔父が入居している神奈川県川崎市にある「グランダ元住吉」にいかせて頂いた。そこで実際に入居している方に現在使用している歩行器の問題点と改良点、ホーム長の方に入居者の導線と老人ホーム内で歩行に関係する器具について伺い、以下に問題点をまとめる。

- ・私の叔父は部屋内に椅子を手すり代わりに利用しており、歩行補助具は玄関が一番近い場所で使用する以外は放置されており、本人も歩行器本体の見た目があまり好ましくないと嘆いていた。
- ・個室に置く際に非常に邪魔で部屋と一体化せず、余り室内に入れたくない
- ・実際に歩行器を使用している時に少し疲れた際腰をかけたくなる

またホーム長には個室から食堂や休憩室に向かう導線と廊下に設置してある椅子が軽い休憩に用いられるという事実があると伺った。

以上の点から休息可能にする事と、マテリアル、歩行器の形状の改善が必要とされる。

## 3. コンセプトの立案

「休息の取れる歩行器」

歩行器を使用中、少し疲労を感じた時に近くのベンチや椅子に座るのではなく直接歩行器に着座出来る「歩く」と「座る」を兼ね備えた歩行器とする。

## 4. デザイン展開

<椅子を設置>

本来であれば歩行器を使用中に利用者が疲れた場合、近くのベンチやソファを探す手間がかかり最悪ガードレールや階段など衣服が汚れる場所に腰をかけなければならない。歩行器本体に座面を設置することによって好きなタイミングで好きな時間休息を取ることと可能とした。

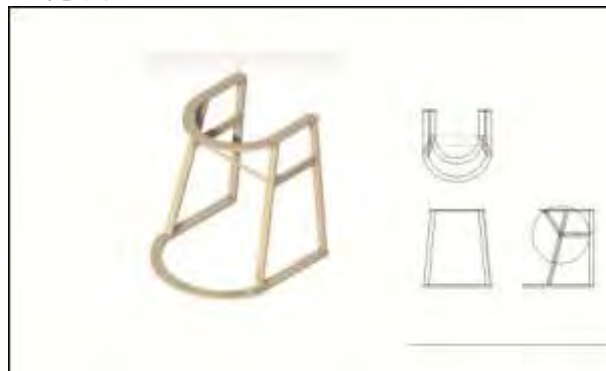
<木製>

従来の歩行器や歩行補助具は金属が大半を占めており、室内に置いておくには無機質で調和せず使用者も敬遠しがちである。基本的なパーツを全て木材にすることによって金属よりなめらかで触り心地の良い感触を楽しむことが可能で室内に置いた場合も自然に調和する。

<形状>

馬蹄形の肘支持型歩行車のような形状にすることによってアーム部分全体を使用することが可能でどこを掴んでも安定し、キャスターを取り付けずにスライドしながら走行するので転倒のリスクを下げた。また座面設置時も椅子として十分な安定性や耐久性を兼ねている。

## 5. 完成図



## 6. 結論

木製のため耐久度が低く、アームや座面を支える支点が折れやすいため強度を増す事と、座面を使用する際に高齢者であるとセッティングに時間がかかってしまう恐れがあり、その手間を省く改善点も考える必要がある。また以前調査を行った結果、素材は改善したものの大きさ自体は少々小さくなっただけであり、折り畳み式や分解可能な形状を取り込んだほうが賢明であるかもしれない。

## 文献

[1]介護保険で利用できる福祉用具 電気ベッドから車いす、歩行器まで、